

活動を通しての成長

社会福祉学部社会福祉学科 2年 古家 琴乃

活動先：NPO 法人 共育ネットはんだ

クラス：野尻 紀恵 先生

私は、自分でサービスマーケティングを選び入ったけれど、最初はサービスマーケティングの活動がどういうものなのか、何を目的としてやっているのか理解できず、ただ言われたことをやっていただけだった。しかし、今となれば、もっと意味を把握した上でやっていたらと思う。

私は、「共育ネットはんだ」で活動させてもらった。共育ネットはんだは、半田市に住む子どもやその親を対象に、様々な出会いと体験を通して「子どもたちと共に育み、子どもたちと共に育ちあう」ことを活動理念にしており、小学校・中学校の総合学習支援、発達障がい児のスポーツ体験活動支援、職場体験支援、自立支援などを行っている。私は、その活動の中のサマーアタック、びりい部、ableBBC、定例会、共育ファームに参加させてもらった。活動では、担当の子に付いて声掛けをしたり、手伝いをしたりした。最初はなぜこの活動を行っているのか分からないままだったが、定例会で親御さんたちの声を聴き、活動の意味や思いに触れることができた。家庭ではなかなか体験できないことを体験することができ、また、その体験によって「出来ること」の可能性を広げることができる。また、同年代の子どもやスタッフなど人と関われることに感謝しているとのことだった。私はそこから子どもの手伝いをしていく中で、今後の生活の中で生きるような方法で手伝いをしていこうと思い、やっではいけないことにはきちんと注意すること、できないことは自分で言うことを特に意識をして活動するようになった。

また、学生企画では「思い出を残したい」という思いから、フォトフレーム作りを行った。初めは、フォトフレームのみを行う予定だったが、急きょ食育として「フルーツポンチとクレープ作り」も行うことにした。そこで時間配分配慮が足りず、スタッフさんや、迎えに来た親御さんたちにも迷惑をかけてしまったことが反省点だ。そこから、もっとスタッフさんと話し合いをし、意見交換等をする事の大切さを学んだ。活動では、家庭ではなかなか出来ない体験や、今後につながる体験をしてもらいたいと思い、はさみを使って自分の名前を切り抜くことや生クリームを泡だて器で泡立てること、缶切りで缶詰のふたを開けることを目標とした。実際にやってみて、子どもたちは苦戦しながらも一生懸命にやってくれた。また、いつもは一人の子を見ていたけど、活動の主催者として、他の子の様子も沢山みることができ、また新たな気づきをすることができた。さらに、苦手な物も頑張って食べている様子から、この活動の良い点を発見することができた。

これらの活動を通して、担当者の水野さんに「もっと積極的に活動をしてほしい」とずっと言われていた。けれど、自分たちも頑張っているなかで、どうやったら積極的に活動をしていると言えるのか分からず、活動をする中で戸惑いがあった。しかし、最後の活動であった「共育ファーム」の活動を通して、自分の中で変化が見えた。共育ファームとは、乳幼児を対象とし親子で農業体験を通して、食育や親子・親子間でのコミュニケーションの活発化を目指す活動である。そこで子どもや親御さんと活動をする中で、自分たちも真

剣になって農作業をすることができたし、何よりも楽しんで活動を行うことができた。そのことから、今まで自分と活動に対する姿勢が変わったことを感じた。この活動では、より子どもや親御さんの思いに触れることができた。

様々な活動に参加をする中で、NPOとはどういうものなのか、また、地域の住民からの多くのニーズがあることも分かった。現に共育ネットはんだが行っている活動も参加をしたい人がまだ沢山いるが、スタッフ不足の点などから待たせている状態であることも知った。さらに、資金などの問題からなかなか活動を拡大できない現状があり、NPOの経営の難しさを実感した。

このように、1年間のサービスマーケティングの活動を通して、自分自身とても成長できたと感じている。野尻先生にも活動前と活動後では、顔の表情が全く違うと言ってもらえるくらいである。また、NPOのニーズなど今まで知らなかったことを沢山知ることができ、今まではNPO=ボランティアだと思っていたため、印象が一気に変わった。

さらに、共育ネットはんだの水野さんも私たちにどのように伝えたら思いを分かってもらえるのか悩んだようで、この活動で自分たちの成長はもちろん、共育ネットはんだにも何か得るものがあった活動になったと感じている。

最後に、地域福祉のニーズをととても実感する活動になった。自分が住んでいる地域が住みやすく、福祉も発展していれば住民間の問題も緩和されるのではないかと思う。そういう面でもNPOはもっと進展していくべきだと思うし、皆に知ってもらいたいと感じた。今後、この活動が活きるような学びをしていきたいと思った。

7月31日 サマーアタック



8月27日 びりい部

